

とやまの歴史を語る —センターの発掘調査から—

とっておき埋文講座

前富山県埋蔵文化財センター所長 山本 正敏

はじめに

昭和49年に、私は文化財保護主事として富山県教育委員会に採用され、この埋蔵文化財センターには、創設以来、通算30年以上在籍しました。

その間、県内の遺跡調査に関わり、私の考古学人生は埋蔵文化財センターとともにあったといえます。中でも私が特に興味を持った遺跡の調査をいくつか取り上げて、その重要性を紹介したいと思います。

直坂Ⅰ遺跡と立野ヶ原遺跡群

富山県最古の旧石器はどれか？

以前は富山市直坂Ⅰ遺跡を最古としていましたが、近年では南砺市立野ヶ原遺跡群のウワダイラⅠ遺跡やウワダイラⅡ遺跡などが最古であろうというのが一般的な考えです。

埋蔵文化財センター発足前に両遺跡の調査に関わった者として言わせてもらえば、この問題は完全に決着したとはいえません。両石器群の包含地層の上下関係が明らかになる資料の出現を待って判断したいと思います。



富山市直坂Ⅰ遺跡



射水市南太閤山Ⅰ遺跡

なお昨年これらの石器群が県指定文化財となったことは嬉しい限りです。

南太閤山Ⅰ遺跡

射水市南太閤山Ⅰ遺跡（下層）は縄文時代前期の低湿地性の遺跡です。現在の地表面から5～6メートルも深く埋もれ、水分の多い地層にありました。驚いたのはクルミ・クリ・ヒシなどの堅果類、シカ・イノシシなどの獣骨類、そして多種類の魚骨などが大量に出土したことです。

すなわち食料残渣（たべかす）が斜面に投げ捨てられて堆積していたのです。縄文前期人の生業や食糧

事情の良くわかる一級資料でした。

同時に保存状態の良い縄文土器も大量に出土して、何個体も全体の器形を復元する事ができました。



南太閤山Ⅰ遺跡出土品



南砺市ウワダイラⅠ遺跡

縄文時代の時間の尺度を決めるには、年代とともに形や文様が様々に変化していく土器の型式変遷（編年）が有力な手掛かりとなります。南太閤山I遺跡の縄文土器により、より詳細な土器編年を組み立てることが可能になりました。

境A遺跡

北陸自動車道建設に先立って発掘調査した朝日町境A遺跡は、ヒスイ製玉類と磨製石斧の生産拠点集落として、非常に注目されました。

目の前に広がる越中宮崎ヒスイ海岸からヒスイ原石を採取してきて、大珠・勾玉・垂玉・丸玉などの玉類を、蛇紋岩（透閃石岩）を採取してきて磨製石斧を大量生産しています。



境A遺跡出土品

おびただしい数の未完成品（製作失敗品）や、敲石・砥石・台石な



境A遺跡出土品（玉類）

どといった石製工具類が出土して、まさに自家消費量をはるかに超える玉類や磨製石斧が生産されて、日本各地に流通していることが明らかにになりました。

縄文時代における石器生産と流通のあり方を考えるうえで最高の資料であり、その後国の重要文化財に指定されました。

早月上野遺跡

私にとっては小学生の時、初めて訪れた、思い出深い遺跡です。北陸新幹線工事に先立って、遺跡中央を横切る形で発掘調査が行われました。

その結果、縄文集落として典型的な環状集落の形をしていることや、直径が300メートル以上あって、規模は日本有数のものであることが明らかにになりました。



魚津市早月上野遺跡（住居跡）



魚津市早月上野遺跡



朝日町境A遺跡